



子供服循環事業計画 SEAds

2025.12.19

事業提案

思い出を形に。
サイズアウトから始まる新しい循環教育。



ターゲット

子育て世代の親

衣類循環を身近に感じ、子供の成長を大切
に残したい人々



→頻繁なサイズアウトに直面し、服の処分に悩む

着：服の寿命と子供服の価値

大人の服は長く滞留するが、子供服は強制的に循環する

大人の服の平均年齢

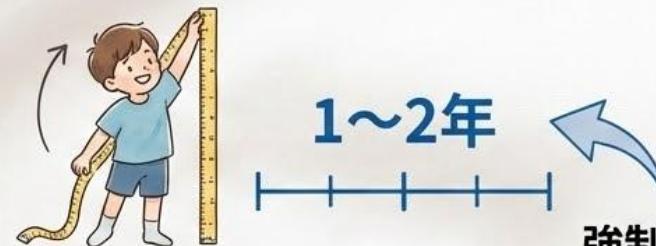


嗜好変化



着用期間

子供服の特徴



強制的に
循環する

廃棄理由



サイズアウト

※1(花王、全国1,000人を対象に実施した「衣類に関する実態調査」より
<https://www.kao.co.jp/igokochi/data2/>)

コンセプト：3つの価値

親子で学ぶ、優しさあふれる衣類循環のアプローチ



親の思い入れ
思い出の服を捨てず
に新しい形へ



早期教育
制作体験を通じ循環
意識を育む



ワークショップの流れ

学び・作業・交流を繋ぐワークショップフロー



STEP 1

導入・共有

服の一生を学ぶレクチャー
(5~25分)



STEP 2

リメイク作業

思い出の服をキーホルダーへ
(25分)



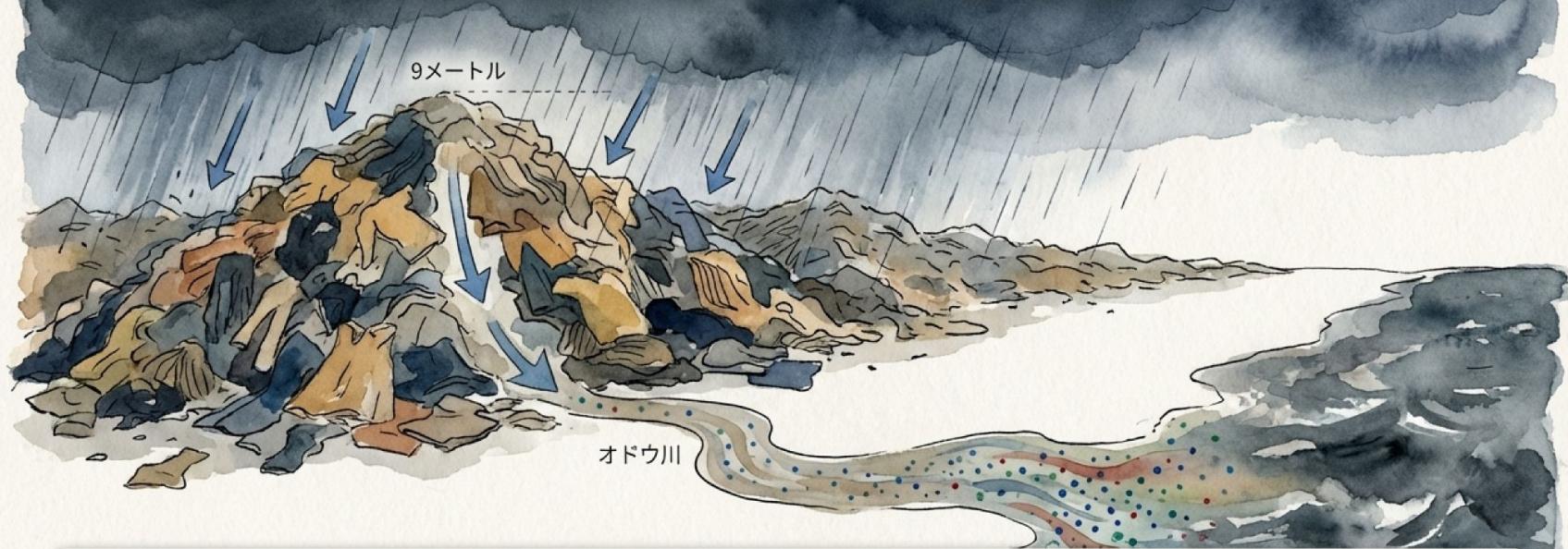
STEP 3

完成・交流

作品共有と意識変革
(10分)

スライド例

雨が降ると、雨が降ると、海へ流れていく「服の山」



ゴミとなった服は、市場のそばに巨大な山を築きます。その高さは9メートルに達することもあります。

この問題に取り組むヤイラ・アグボファさんは言います。

「*激怒した。その山は海に流れ込む潟湖の上にそびえ立っていた。雨が降ると、廃棄物が海に押し流される*」

スライド例

アクション③ 「手放す」：次の物語へ、賢くつなぐ。

もし手放すなら、ゴミにしない。次に必要としている人に直接届けたり、
信頼できるお店に託したり、最後まで責任を持つ。



フリマアプリ



友人にゆづる



信頼できる古着店へ

制作体験のイメージ

ハサミを入れて、思い出を閉じ込める



-  子供自身がハサミを使う **能動的な体験**
-  柄のどの部分を残すか親子で対話
-  専用ケースに封入し、世界に一つの宝物に
-  「捨てる」から「残す」への意識転換

今後のビジョンとシステム

テクノロジーと地域連携による循環モデルの進化



簡略化システム

CUT・PASTE・SETの3工程で
誰もが参加可能な回収へ



声の記録

NFCタグを活用し、思い出に
「子供の声」を乗せる新機能



地域拠点化

会場での古着回収をセットに
し、地域コミュニティの循環拠
点へ

開催時期 & 場所



開催時期：
2月～3月



参加者：
不登校支援を利用して
いる子供の親



開催場所：
Warmth Space



SEAds